



岩手南部森林管理署・一関市共催 岩手・宮城内陸地震3周年

「市野々原復興記念植樹祭」「被災地展望広場除幕式」 並びに「祭時見学通路開通式」

がんばろう！東北

平成23年6月14日午前8時43分に岩手・宮城内陸地震発生から3年を迎えました。岩手南部署では地震発生直後から対策を進め、昨年の12月に市野々原地区における磐井川右岸の大規模地すべりの復旧工事が完成し、緊急復旧事業は完了しました。地震発生から3年を節目に一関市とともに記念式典を開催し、市野々原地すべり復旧

地で地区住民、近隣小学校3校、一関市民合わせて95名とともに植樹祭を行いました。

2011年は国際森林年でもあり、また3.11の東日本大震災による沿岸部の津波被害も甚大であることから、「未来を担う子供達とともに森林を再生させ、災害に強い県土を作っていきましょう」と呼びかけました。

祭時見学通路開通

落橋した祭時大橋とそれに通じる破壊された国道を見学できる木道が開通し、小学生らが歩きました。



▲ 祭時見学通路の木道は落橋した橋まで108m続いており、地震動により崩壊した道路と落ちた橋をよく見ることができます。

市野々原地すべり復旧地を望む被災地展望広場のモニュメント除幕式を執り行う小学校3校の代表、一関市長、市議会議員および岩手南部署長。

市野々原地すべりの対策工および現地発生材と微生物を用いた緑化工について説明しました。



▲ 記念標柱の建立



▲ 記念植樹祭

地区住民、近隣小学校3校、一関市民95名と一関市および管理署スタッフ、関係業者、報道陣をあわせて参加者総数200名弱で500本の苗木を植樹しました。植樹樹種は周辺森林の出現樹種を中心に広葉樹3種（ブナ、ミズナラ、ヤマザクラ、イタヤカエデ、ヤマモミジ、ヤマボウシ、コブシ、タニウツギ、ヤマハシノキ）を選定した。また、苗木はすべて岩手県海沢村で生産されたものを用いました。



▲ 市野々原地すべり復旧地で植樹をした後、記念標柱を建立し、記念撮影をしました。